

県内女性の消費マインドはわずかに悪化

～第42回熊本の消費予報調査－2019年11月調査～

はじめに

当研究所では、毎年5月と11月に熊本の女性を対象として「収入」、「支出意欲」、「暮らし向き」及び、「日常的な支出」、「非日常的な支出」についての今後の見通しなどを尋ねている。これらの調査結果の分析を通じて、熊本の女性の消費マインドの今後の見通しなどを探りたい。

【調査結果の概要】

1. 県内女性の消費マインドは依然として低い水準

- 10月の消費増税後の初めての調査であったが、支出意欲の見通しはわずかな悪化となった。
- 前回の消費増税後に「支出意欲」が大きく低下する中、熊本地震が発生した。その後、「収入」の見通しには回復感がみられているが、将来不安等を背景に「支出意欲」の見通しは依然としてリーマンショック並みの低い水準にとどまっている（図表1）。

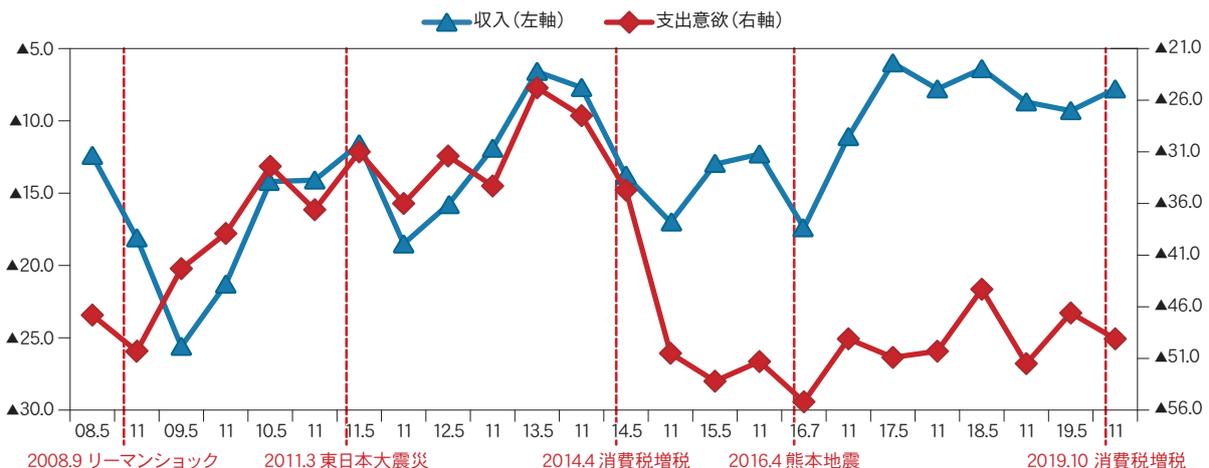
2. 熊本地震前と比較した現在の生活環境はわずかに改善

- 「ほぼ元の生活に戻った」という回答が約8割となったが、依然として2割の回答者は生活環境が回復していない。

3. キャッシュレス決済の利用ニーズには世代差

- 普段の買い物でキャッシュレス決済を「よく利用している」のは32.6%。「ときどき利用している」(40.2%)を含めると72.8%がキャッシュレス決済を日常的に利用している。
- 利用するために必要なことでは、年代を問わず「ポイント特典」や「セキュリティ」などに関するものが上位となった。「60代以上」では「店頭手続きのスムーズさ」を重視する傾向がみられた。
- このような利用者ニーズに応じていくことでキャッシュレス決済の利用が広がると考えられる。

図表1 今後の見通しDIの長期推移（収入と支出意欲）



【調査の概要】

1. 調査対象：熊本県在住の20歳以上の女性
2. 調査期間：2019年11月22日～24日
3. 調査方法：調査会社登録モニターへのネット調査（調査会社：(株)マクロミル）
4. 有効回答：515人

【回答者の属性】

年代	実数(人)	構成比(%)
20代	103	20.0
30代	103	20.0
40代	103	20.0
50代	103	20.0
60代以上	103	20.0
合計	515	100.0

1 今後の見通しDI

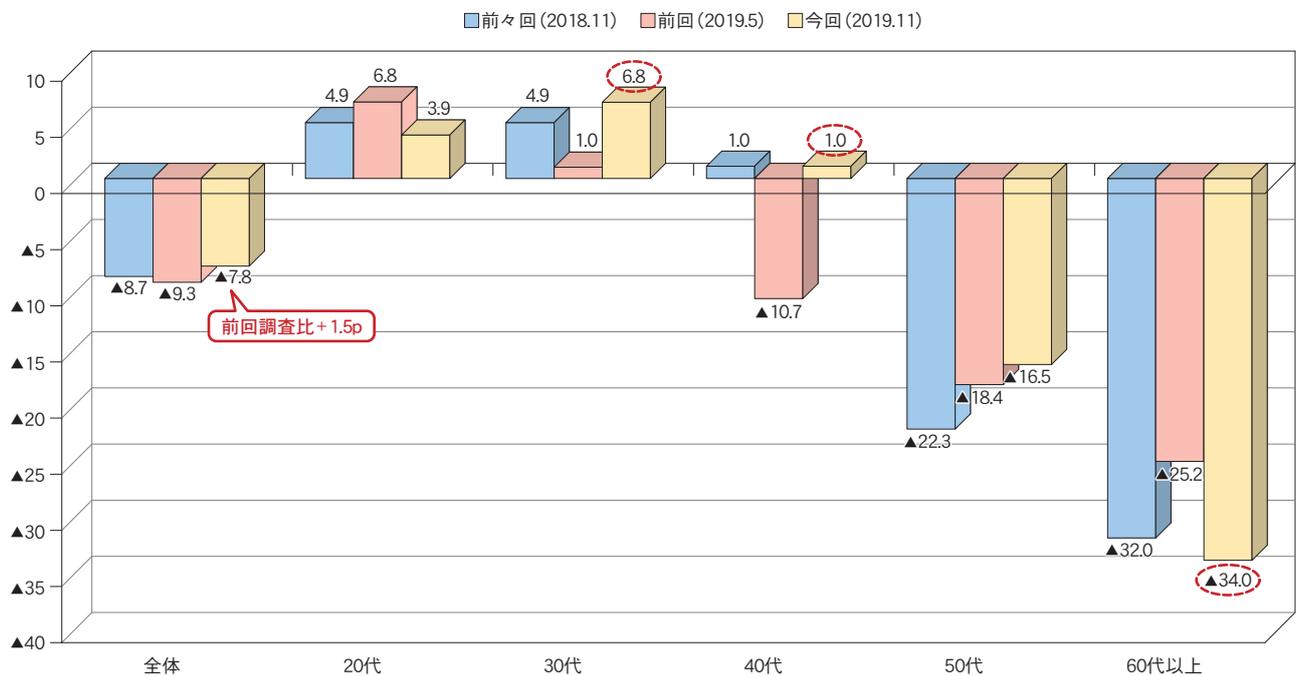
(1) 収入の見通し

➤収入の見通しDIは▲7.8で、前回調査比でわずかに改善した。

年代別では「30代」や「40代」で前回調査比で大きく改善した。自由回答をみると、収入増加の要因として、「正社員への転職」や「ベースアップ」などを要因にあげる意見がみられた。

一方、最も低かったのは「60代以上」であった（図表2）。収入減少の要因として、「定年退職」や「個人年金の終了」などのコメントがみられた。

図表2 収入の見通しDI（「増えそう」-「減りそう」）



【収入の見通しに関する主な自由回答】

収入の見通し	年代	コメント
増えそう	20代	専業主婦をやめて働きに出る予定だから
	30代	4月に育休から復帰するため
	30代	パートから正社員に転職するため
	40代	ベースアップによるもの
	40代	転職し給料が増える
	50代	時給が上がったから
変わらない	30代	昇級の予定はないから
	40代	給料が変わらないから
	60代以上	年金生活なので変わらない
減りそう	20代	転職するかもしれないから
	30代	育休に入るから
	40代	会社の不況
	50代	残業が減った
	60代以上	主人が退職したので
	60代以上	個人年金が終了して公的年金のみになるから

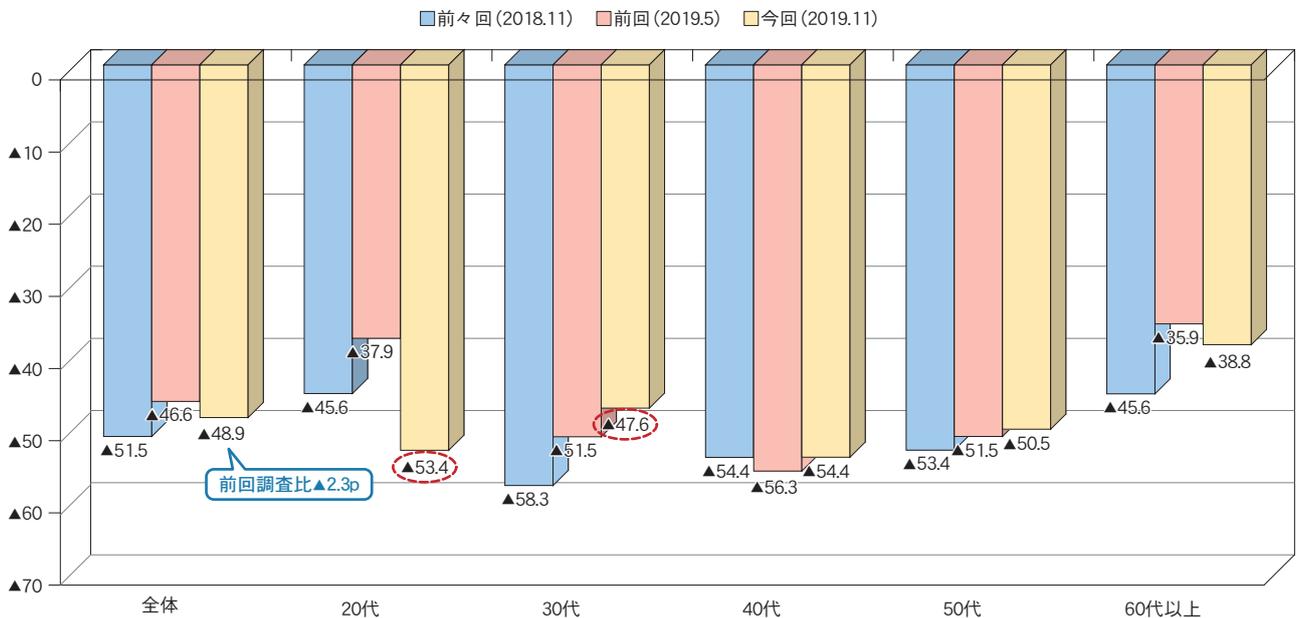
(2)支出意欲の見通し

- 支出意欲の見通しDIは▲48.9で前回調査比でわずかに悪化。
- 将来不安等を背景に「支出意欲」の見通しは依然として低い水準にとどまっている。

年代別で最も低かったのは、「20代」であった（図表3）。自由回答では、支出意欲低下の要因として、「将来不安」に加えて、「育休中」などの生活環境の変化をあげる意見がみられた。

また、「消費増税」による負担増についてのコメントは、若い世代ではあまりみられず、「50代」や「60代以上」などの中高年層を中心に多くみられた。

図表3 支出意欲の見通しDI（「緩める」+「少し緩める」）-（「引き締める」+「少し引き締める」）



【支出意欲の見通しに関する主な自由回答】

支出意欲の見通し	年代	コメント
緩める	30代	子供が生まれて必要なものがあるから
少し緩める	30代	自分の使えるお金が少しできるため
	40代	学費がかからなくなったから
いままでと変わらない	60代以上	楽しい人生を送りたいので
	20代	収入が変わらないから
	40代	必要なものは買わないといけなから
少し引き締める	60代以上	これ以上引き締めようがない
	20代	今後は不安だから
	30代	今も引き締めています貯蓄もしたいので引き締めます
	40代	老後資金を貯める為
引き締める	50代	税金が上がったから
	60代以上	収入は増えないが、消費税が上がった
	20代	育休中なため
	30代	将来が不安だから
	40代	ダブル受験を控えているから
引き締める	50代	消費税が上がったから
	60代以上	消費税があがったので、支出を考える

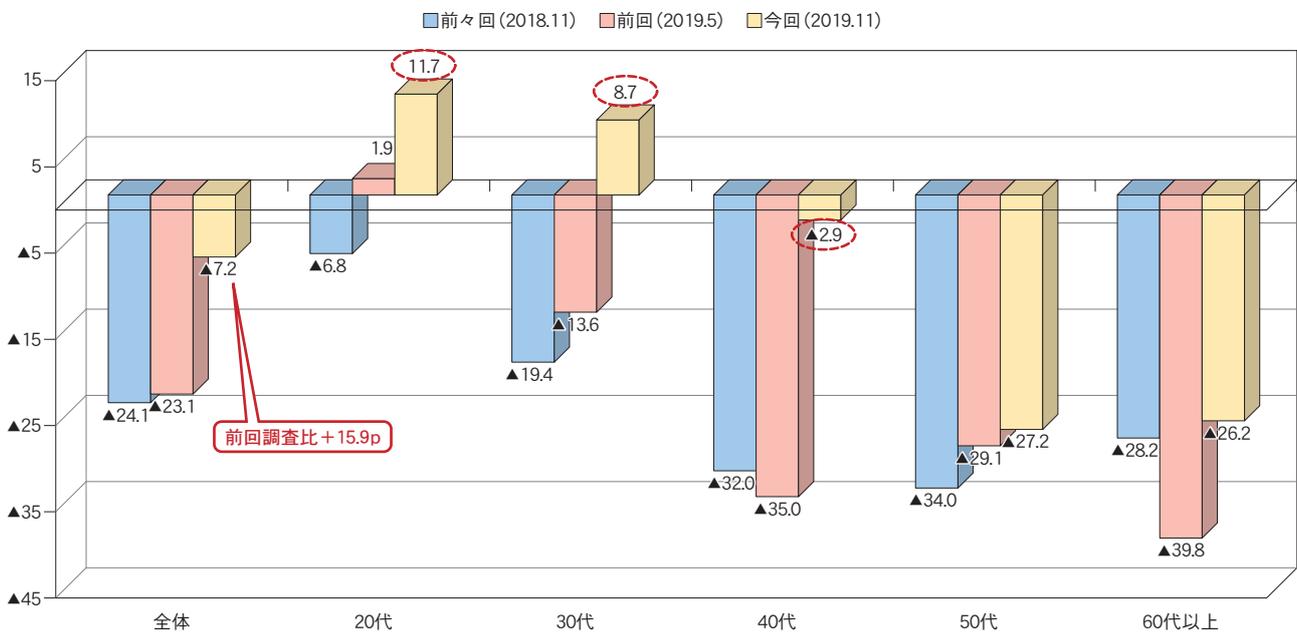
(3)暮らし向きの見通し

➤収入と支出の見通しに大きな変化がみられない中、暮らし向きの見通しDIは▲7.2と、前回調査から大きく改善した。

年代別では、「20代」、「30代」、「40代」で大きく改善している（図表4）。自由回答では、収入面の改善などをあげる意見もあったが、「出産」や「結婚」などの生活環境の変化をあげる意見も多くみられた。生活面の明るい出来事などが暮らし向きDIの水準を押し上げたことが考えられる。

一方、「50代」と「60代以上」でDIが低い水準にとどまっている。自由回答では、収入増加が見込みにくい中、「消費税増税」等による家計負担の増加をあげる意見が多くみられた。

図表4 暮らし向きの見通しDI（「良くなる」+「やや良くなる」）-（「悪くなる」+「やや悪くなる」）



【暮らし向きの見通しに関する主な自由回答】

暮らし向きの見通し	年代	コメント
良くなる	20代	給料が上がっていくので
	20代	新築マンションへ引っ越し予定があるため
	30代	子供が生まれる為
やや良くなる	20代	結婚するから
	30代	副業による収入増のため
	30代	家族が増えるから
	40代	転職のため
いままでと変わらない	20代	増税した分節約してるため
	40代	暮らしそのものに大きな変化はなさそうです
やや悪くなる	30代	子供の習い事や車のローンが増えそう
	50代	更に親の介護が重くなりそうだから
	60代以上	消費税増税で厳しい
悪くなる	20代	支出ばかりが増える
	50代	収入は下がり、物価はあがり、税金も上がった
	60代以上	増税による生活の質の低下

2 日常・非日常の支出の状況

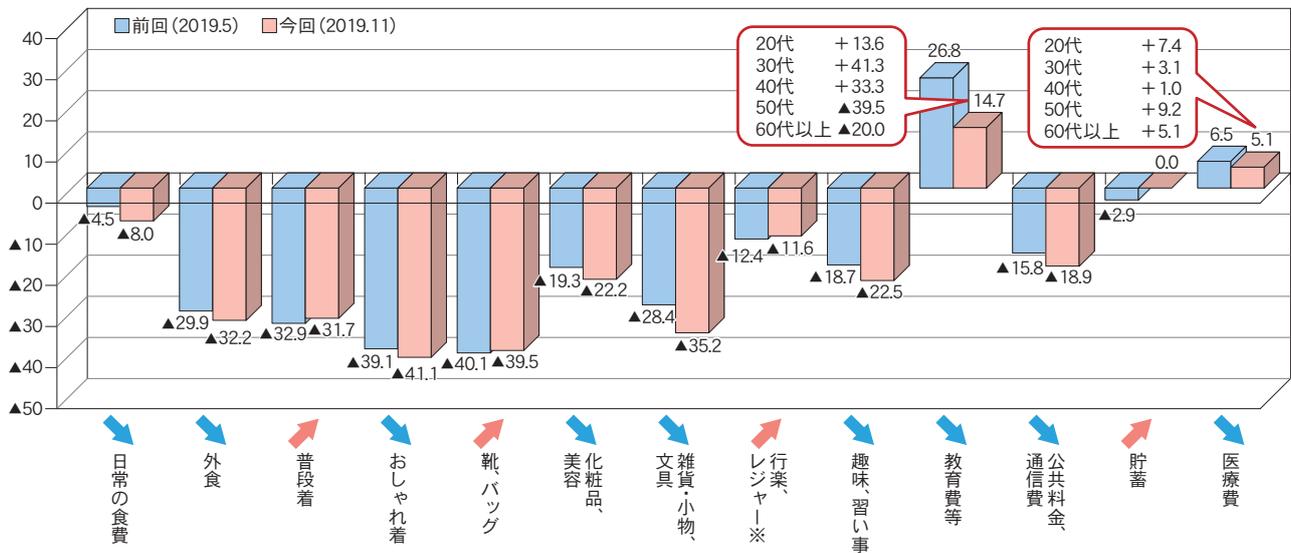
(1) 日常的な支出の見通し

➤DIがプラスとなったのは「教育費等」と「医療費」。

➤最もDIが低かったのは「おしゃれ着」の▲41.1で、「靴、バッグ」が続いた。

年代別では、「教育費等」は「30代」、「医療費」は「50代」のDIが最も高かった（図表5）。自由回答では「子供の学費が増えるので貯金しておきたい」（30代）、「病気になった時の医療費を貯蓄したい」（50代）などの意見がみられた。

図表5 日常的な支出の今後の見通しDI（「増やす・増えそう」-「減らす・減りそう」）

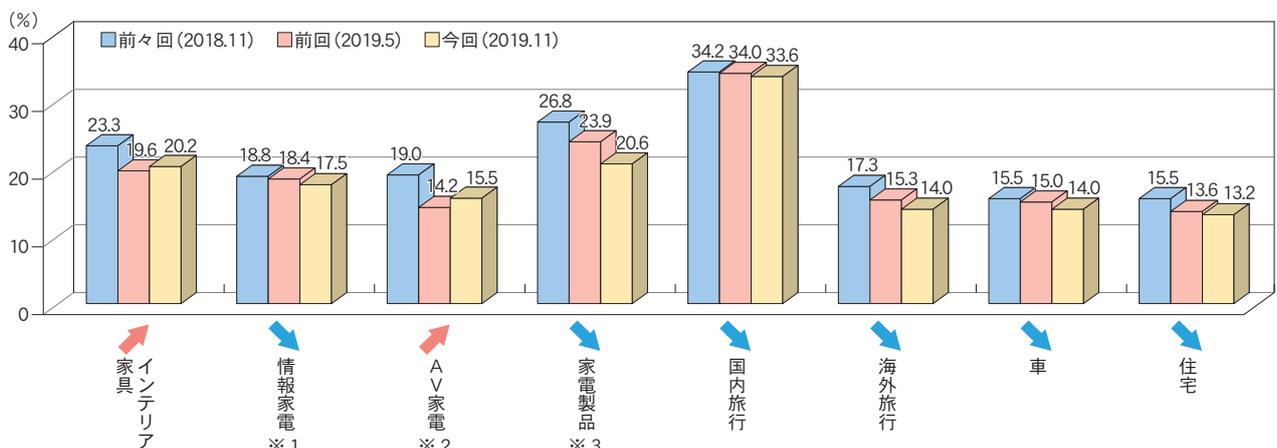


(2) 非日常的な支出の見通し

➤非日常的な支出は、「インテリア、家具」と「AV家電」が前回調査と比べて上昇した。

前回調査（2019年5月）では、非日常的な支出の見通しのすべての項目が低下するなど、駆け込み需要の兆候はみられなかった。消費増税後の今回調査でもそれほど大きな変化はみられていない（図表6）。

図表6 非日常的な支出品目の今後半年間の支出見通し



※1 情報家電とは、パソコン、パソコン関連機器、携帯電話（スマートフォン）など。
 ※2 AV家電とは、テレビ、ブルーレイレコーダー、デジタルカメラ、ビデオカメラなど。
 ※3 家電製品とは、冷蔵庫、洗濯機、食洗機、エアコンなど、情報家電とAV家電以外の電気製品。

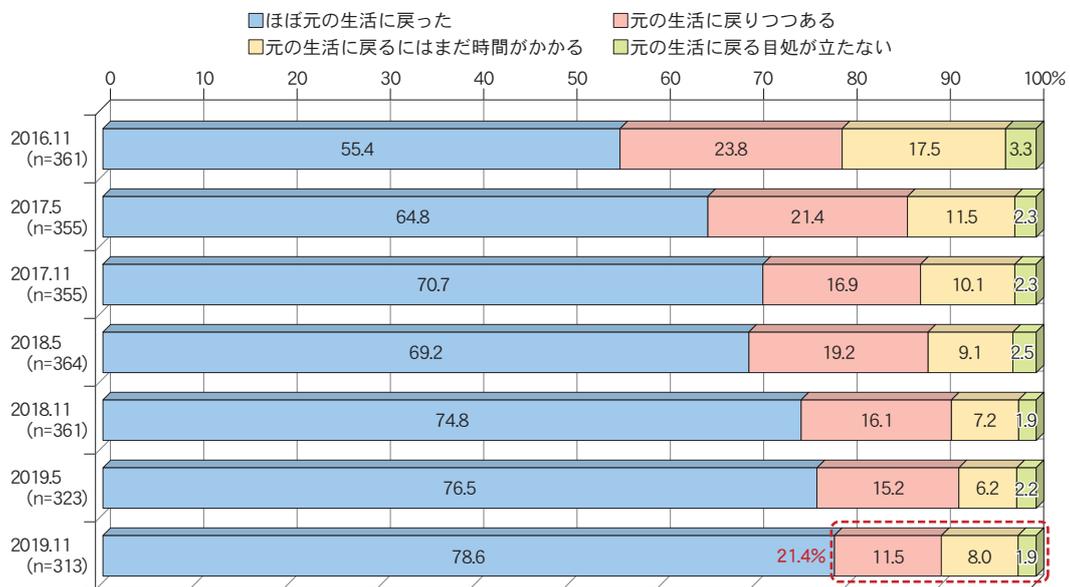
3 熊本地震前と比較した現在の生活環境

- 「ほぼ元の生活に戻った」は前回調査比でわずかに増加し、約8割が該当している。
- 依然として約2割の回答者が元の生活に戻ることが出来ていない。

「元の生活に戻る目処が立たない」、「元の生活に戻りつつある」という回答は減少しているが、依然として約2割の回答者が元の生活に戻ることが出来ていない（図表7）。

自由コメントをみると、「屋根の修理費用が捻出できない」（60代以上）、「壊れた家具などの買い替えがまだだから」（同）など、高齢者を中心に自宅の修復や家財の買い替えなどが出来ていないという意見がみられた。

図表7 熊本地震前と比較した現在の生活環境



【熊本地震前と比較した現在の生活環境に関する主な自由回答】

現在の生活環境	年代	コメント
ほぼ元の生活に戻った	20代	そこまで大きな被害はなかったから
	50代	マンションの修理も終わったので
元の生活に戻りつつある	30代	家を引っ越して精神的にも落ち着いてきた。道も少しずつ復旧
	40代	生活などは元に戻りつつあるが、壊れた建物などは完全に戻っていない
元の生活に戻るにはまだ時間がかかる	30代	実家に帰るのにJRや主要道路の復旧がまだまだ時間がかかる
	40代	貯蓄を随分使ってしまったので
	50代	自宅の補修工事が終わってない
	60代以上	一部家の修理が出来ていない
	60代以上	まだ屋根の修理の費用が捻出できていない
	60代以上	壊れた家具などの買い替えがまだだから
元の生活に戻る目処が立たない	40代	半壊認定の家屋に住んでいるが、リフォームする余裕がない
	50代	住む所がなくなる

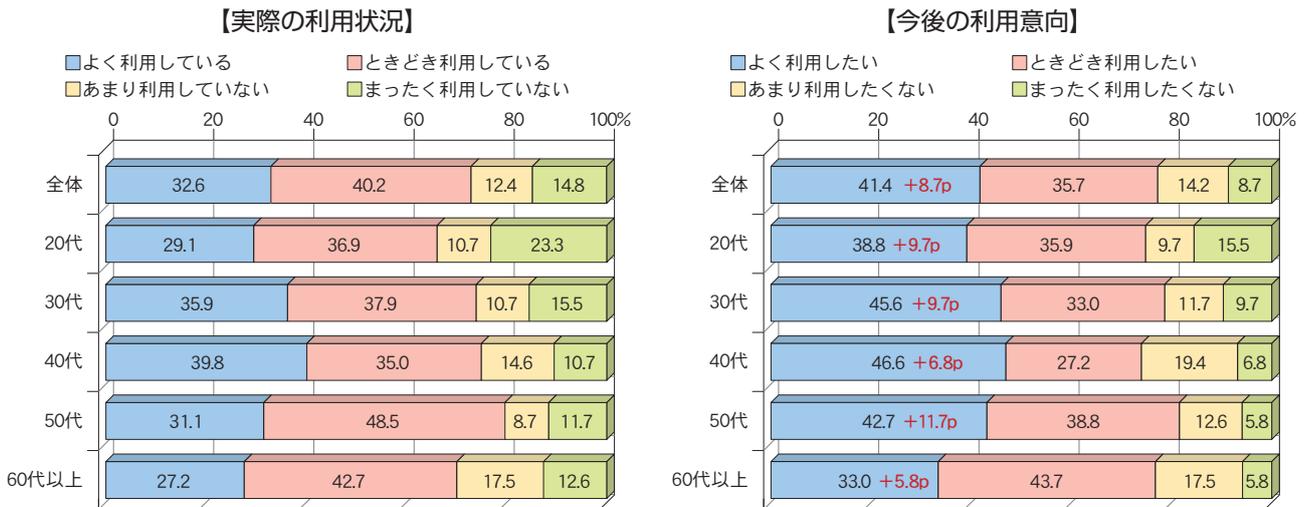
4 キャッシュレス決済について

(1) 買い物におけるキャッシュレス決済の利用状況

- 実際の利用状況を尋ねたところ、32.6%が「よく利用している」と回答した。年代別では「40代」が最も多かった。
- 今後の利用意向でも「よく利用したい」という回答は「40代」が最も高かった。

「実際の利用状況」と「今後の利用意向」の差をみると、「50代」の伸びが最も大きい（図表8）。

図表8 キャッシュレスの利用頻度（実際の利用状況・今後の利用意向）

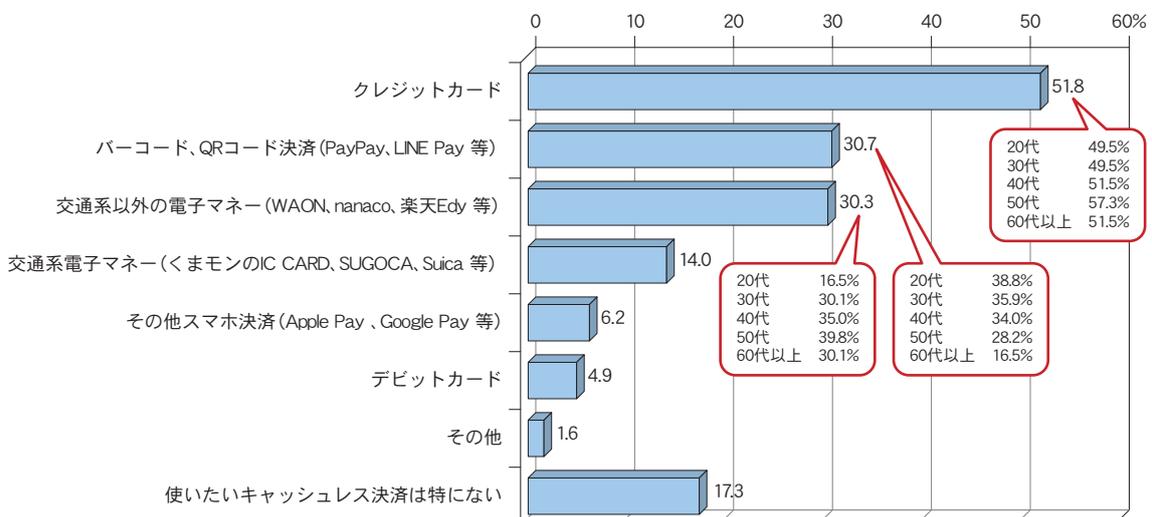


(2) 買い物で使いたいキャッシュレス決済の種類

- 使いたいキャッシュレス決済では、「クレジットカード」が51.8%で最も高く、「バーコード、QRコード決済」と「交通系以外の電子マネー」がともに30%を超えた。

「クレジットカード」では、それほど年代のバラツキがみられなかった。一方、「バーコード、QR決済」は若い世代、「交通系以外の電子マネー」は中高年層で高くなっている（図表9）。

図表9 買い物で使いたいキャッシュレス決済の種類



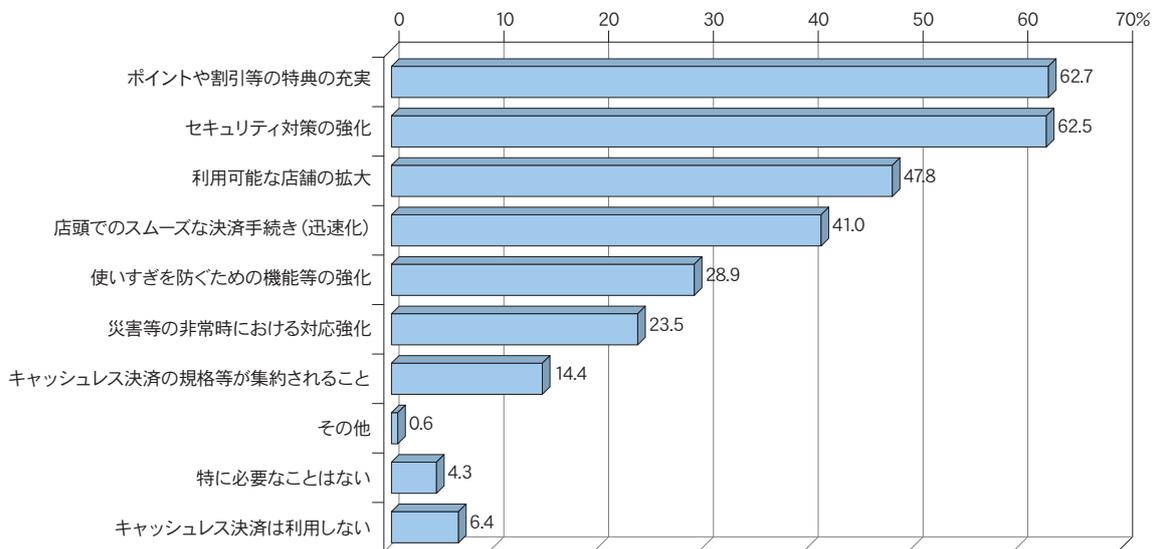
(3) キャッシュレス決済の利用のために必要だと思うこと

- 利用するために必要なことでは、「ポイント割引等の特典の充実」が62.7%で最も高く、ほぼ同じ水準で「セキュリティ対策の強化」という回答が続いた（図表10）。
- 利用者ニーズに応じていくことでキャッシュレス決済の利用が広がると考えられる。

年代別にみると、「20代」、「30代」では「ポイント特典」に関する項目がトップとなったが、「40代」、「50代」、「60代以上」では「セキュリティ」に関する項目がトップとなっている。

また、「20代」から「50代までは「利用可能店舗」に関する項目が上位3つに入っているが、「60代以上」では、「店頭での手続きのスムーズさ」が入っている（図表11）。キャッシュレス決済の拡大を図るためには、これらの世代別のニーズ等を踏まえた対応を取るなどが求められる。

図表10 キャッシュレス決済の利用のために必要だと思うこと



図表11 キャッシュレス決済の利用のために必要だと思うこと（年代別の上位3つ）

